

令和4年度 紫波三中「まなびフェスタアンケート結果」及び 学校評価

校長 佐藤 智一

- 1 評価期日 令和3年2月25日（金）18時～20時 緑：良 好
- 2 評価方法 学校運営協議会に学校評価（案）を提案し、承認していただく。 赤：要改善
- 3 まなびフェスタ自己評価アンケートの結果と考察

次年度に向けて

(1) 教育目標 グラフ右下の数値は全校生徒の自己評価における肯定的回答（はい+まあまあ・上位選択肢2つ）の割合

◇ 知 主体的に学ぶ生徒

<p>授業の内容がわかる</p> <p>まあまあ 15% はい 81%</p> <p style="text-align: right; color: green;">96%</p>	<p>分かったことができる</p> <p>まあまあ 22% はい 73%</p> <p style="text-align: right; color: green;">95%</p>	<p>学ぶ楽しさを感じている</p> <p>まあまあ 20% はい 75%</p> <p style="text-align: right; color: green;">95%</p>	<p>授業で伝え合い、響き合い、高め合う</p> <p>まあまあ 33% はい 63%</p> <p style="text-align: right; color: green;">96%</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 学調「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」（はい）の割合 3年 64%（国 31%） 2年 64%（県 32%） 1年 78%（県 42%） ● 町家での生活アンケート「1日あたりの勉強時間」2時間以上の割合..... 3年 15% 2年 13% 1年 21%（町 19%） ● 町家での生活アンケート「1日あたりの読書時間」1時間以上の割合..... 3年 4% 2年 8% 1年 6%（町 9%） 			
<p>→基礎的・基本的な知識・技能の定着に向けて、一人ひとりの生徒の理解の程度や興味・関心に応じた指導、重点的な指導や繰り返し指導の充実など、指導方法・評価方法の工夫改善に努めていきたい。</p> <p>→思考力・判断力・表現力の育成に向けて、知識・技能の活用を意図した言語活動を通して、主張・根拠・理由付けの筋道をつけて論理的に考えたり、複数の視点から考えたことを総合して多面的に考えたりする活動をもとに、課題解決する授業を重ねていきたい。</p> <p>→主体的に学習に取り組む態度の育成に向けて、主体的な学びの過程【①課題解決の見通しを持ち、②伝え合い（気づいたことを伝え合う）、③響き合い（課題解決のアイデアを考え試す）、④高め合う（根拠や理由をもとに学びの成果や課題を批評し合う）、⑤自らの学習活動を振り返って次につなげる】を繰り返し経験させていきたい。</p>			

◇ 徳 奉仕の心を持つ生徒

<p>進んで掃除をする</p> <p>まあまあ 10% はい 89%</p> <p style="text-align: right; color: green;">99%</p>	<p>進んで挨拶をする</p> <p>まあまあ 27% はい 61%</p> <p style="text-align: right; color: green;">89%</p>	<p>地域活動に進んで参加する</p> <p>まあまあ 12% はい 81%</p> <p style="text-align: right; color: green;">93%</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 学調「人が困っているときは進んで助けていますか」積極肯定（はい）の割合..... 3年 76%（国 41%） 2年 89%（県 68%） 		
<p>→気づきや目配り・気配り等の人間力を高め、それを自分や周囲の人たちの幸せや喜びにつなげていきたい。</p> <p>→ふるさと学習で地域で働く大人との対話を通して、その夢や志に触れて自分の将来の生き方や在り方を考える機会を積み重ねていきたい。</p>		

◇ 体 健康で活力のある生徒

<p>毎日元気に活動している</p> <p>まあまあ 26% はい 68%</p> <p style="text-align: right; color: green;">94%</p>	<p>心とからだの健康と安全に気をつけて過ごしている</p> <p>まあまあ 25% はい 67%</p> <p style="text-align: right; color: green;">92%</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 2月9日までの欠席が10日以上30日未満の生徒..... 2人 ● 2月9日までの欠席が30日以上欠席している長欠生徒..... 8人 ● 2月9日までの欠席が10日未満の生徒..... 88人（欠席0：65人） ● 2月9日までの保健室来室理由..... 病気：218人 怪我 87人 保健室登校 2人 健康相談 9人 その他 32人 ● 家での生活アンケート「1日あたりのゲーム時間」2時間以上の割合..... 3年 7% 2年 30% 1年 06%（町 41%） ● 家での生活アンケート「1日あたりのインターネット時間」2時間以上の割合..... 3年 15% 2年 28% 1年 06%（町 37%） 	

→毎日元気に登校している生徒が多いが、長期欠席生徒が増えてきているので、その改善に向けて個に応じた対応を継続していきたい。
 →メディアの長時間利用とそれに伴う睡眠不測等、基本的な生活習慣の乱れによる体調不良を減らすことができるよう、毎日の健康観察と個別指導、家庭との連携を継続していきたい。

★ 総合評価

<p>学校生活が楽しい</p> <p>92%</p>	<ul style="list-style-type: none"> • (理由1) 友達と会って話したり遊んだりすることが出来るから…………… 42人 • (理由2) 勉強や部活、行事が楽しいから…………… 4人 • (理由3) 色々な人とか関わることができるから…………… 2人 <p>→新型コロナ等の影響を最小限に押さえつつ、行事やふるさと学習で人との関わり合いを重視した取り組みを重ねていきたい。</p> <p>→人一倍敏感で繊細な生徒もいるので、今後も教育相談を丁寧に行い、生徒一人ひとりの特性を受け止め、本人のペースに合わせ、個々の成長に寄り添った支援を行っていききたい。</p>
----------------------------	---

(2) 学校経営の重点 (円グラフは教員の評価)

◇ 知 確かな学力の定着

<p>生徒は授業で見通しを持って学んでいる</p>	<p>生徒は授業で自分で考え表現している</p>	<p>生徒は授業で仲間と協力して課題解決している</p>	<p>生徒は授業でものの見方や考え方を広げ深めている</p>
<ul style="list-style-type: none"> • 学調3年正答率 ……国語 三中 78% 県 70% 国 69.0% 数学 三中 62% 県 49% 国 51.4% 理科 三中 57% 県 48% 国 49.3% • 学調2年正答率 ……国語 三中 69.3% 県 65.9% 数学 三中 43.2% 県 45.2% • 学調新入生正答率 ……国語 三中 53.0% 県 47.7% 数学 三中 51.3% 県 49.5% • 授業における教員のロイロノート活用…………… よく使う 0% 時々使う 50% あまり使わない 30% 全く使わない 20% 			
<p>→紫波町の教育で目指す資質・能力の育成に向けて、「伝え合い、響き合い、高め合う」授業の研究と実践を続けていきたい。</p> <p>→授業における ICT 活用に関する研修を重ね、生徒の思考ツール等を活用した学習方法の幅を広げ、協同的な学びを展開し、学習内容の理解を深めることができるようにしたい。</p>			

◇ 徳 豊かな人間性の育成

<p>生徒は人の嫌がることをしない・させないようにしている</p>	<p>生徒は相手の立場に立って考え行動している</p>	<p>生徒は互いに支え合い、励まし合い、鍛え合っている</p>
<ul style="list-style-type: none"> • 学調「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」(はい) の割合 ……3年 96% (国 82%) 2年 89% (県 83%) • いじめの認知件数…………… 5件 (全ていじめは止んでおり経過観察を継続中) 		
<p>→対人関係の不安が拭いきれないでいる生徒もいる。その姿と背景をよく理解した上で、ネガティブな感情に寄り添い、ストレスや不安と上手く付き合う方法を共に学ばせたい。</p> <p>→教育相談では聴くことに徹し、確認(それってこういうこと?)と問い直し(本当にそれでいい?)を重ねて自分の感情に気づかせ、状況に応じて適切に考え、現実的な問題解決を試し、ポジティブな行動を増やせるよう支援していきたい。</p>		

◇ 体 健やかな心身の育成

<p>生徒は目標に向かって挑戦し努力し続けている</p>	<p>生徒行事や生徒会に熱心に取り組んでいる</p>	<p>生徒は部活動に熱心に取り組んでいる</p>	<p>生徒は心身の健康と安全に対する意識を高めている</p>
------------------------------	----------------------------	--------------------------	--------------------------------

- 学調「自分でやると決めたことはやり遂げる」積極肯定（はい）の割合…………… 68%（国 37%）
- 学調「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦する」積極肯定（はい）の割合…………… 56%（国 21%）
- 全国体力・運動能力調査 5段階評価（A+B）の割合…………… 2年男子 75%（国 31% 県 41%） 2年女子 69%（国 54% 県 62%）

→明るく素直な生徒たちである。生徒が自ら目的と意義を見出し、諦めずに挑戦し続けることができるよう、その時取り組むべきことを5W1Hで考え実践させ、心身の成長を実感させていきたい。

（3）目指す生徒像の育成状況にかかる評価について（円グラフは保護者の評価）

<p>学校の教育活動は、目標を持ち、主体的、共同的に学ぶ生徒の育成に役立っているか？</p>	<p>学校の教育活動は、他者を尊重し、進んで働き、ともに支え合う生徒の育成に役立っているか？</p>	<p>学校の教育活動は、目標に向かい積極的にかかわり最後までやり抜く生徒の育成に役立っているか？</p>
--	--	--

【良かったこと】

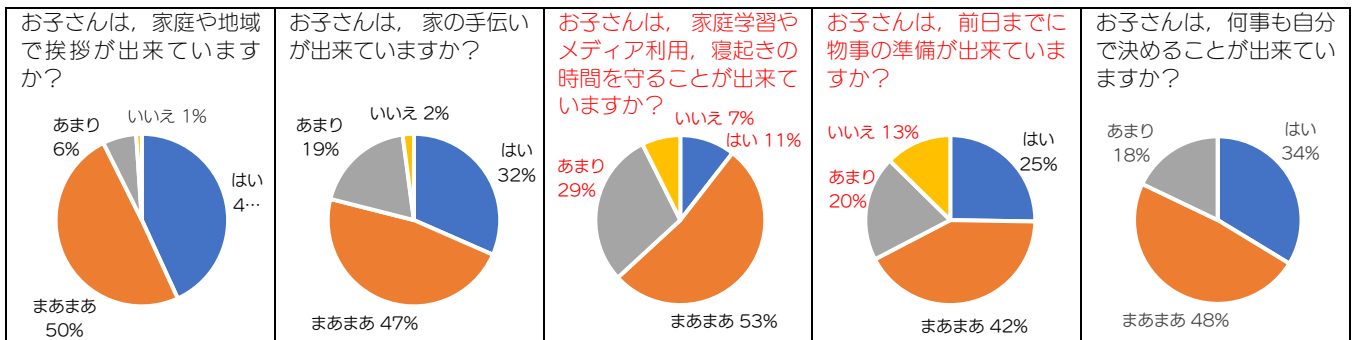
<p><u>1年</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ カウンセラーとの面談 ○ 個に応じた対応 ○ 行事の開催 ○ 授業参観でのプレゼン ○ 放課後学習や一斉テスト ○ 三中祭の学年演目 ○ 学級の仲間との活動 ○ 部活動の先輩とのコミュニケーション ○ あずまネカフェ 	<p><u>2年</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 出停時の授業配信 ○ 部活動の練習試合 ○ 行事の開催 ○ 授業参観のプレゼン ○ 新型コロナウイルス対策 ○ 細やかな気遣い ○ 諸活動の再開 ○ あずまネカフェや60周年事業での地域人材や卒業生との交流 ○ 子どもに寄り添い共に活動する先生 ○ 大会参加への支援や挑戦への後押し ○ 楽しい学級の雰囲気 ○ 先生からの温かい声かけ ○ 生徒としっかり向き合っていたい 	<p><u>3年</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 受験のサポート ○ 修学旅行・運動会・三中祭の実施 ○ 授業参観の一人ひとりのプレゼン ○ 行事の内容の一層の充実 ○ 総合的な学習の内容 ○ 学年合唱 ○ 生徒たちの多方面での活躍
---	--	--

学校や教職員に期待すること

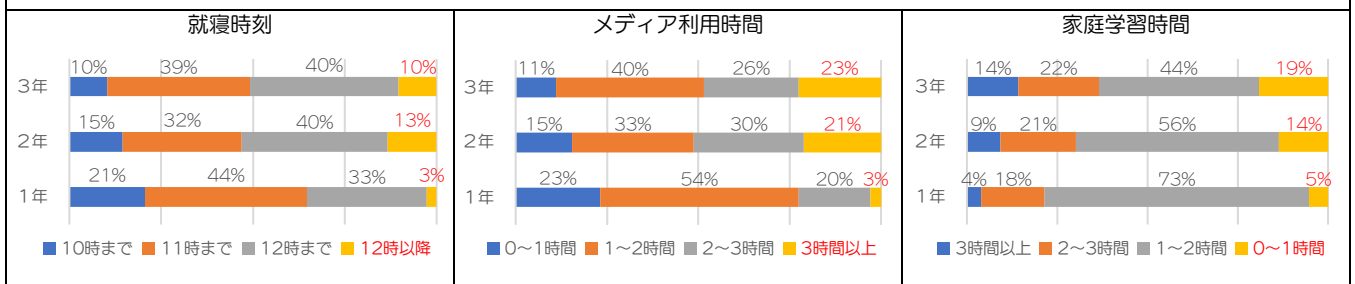
<p><u>1年</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 不登校生徒が増えないこと ● 授業参観で発表できなかった生徒グループのメール等による配信 ● 冬期間の登下校の支援（二中学区との差を感じる） ● スクールザックの重量の軽減（自転車運転の危険防止・置き道具の許可） ● 生徒が自主的に行動できるプログラムの提供 ● 部活動の月予定の事前周知 ● 生理時の生徒への配慮 ● 友達や先生との関係で疑問に思う事やいじめにつながるような事はすぐ知らせていただくこと ● 良いところやできていることを褒めること（小学校との差異を感じる） ● 学習意欲を引き出す学習機会を増やすこと ● 部活動に臨む真剣な態度の育成 ● 教育相談の継続 ● 指導時に生徒の話をよく聞くこと 	<p><u>2年</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 部活動の大会結果の随時配信 ● メール配信の積極活用 ● 部活動を補完する夜練習の充実 ● 叱るときはもっとバンッと叱る ● コロナ禍でも地域・保護者・生徒と一緒に考えてより良い活動をつくること ● 大事な要件の文書での連絡（メールではなく） ● 明るく元気に接して欲しい 	<p><u>3年</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 頻繁な時間割変更の改善 ● 道徳の時間の確実な実施 ● 部活動の指導者の確保 ● 部活動の紫波町全体での抜本的改革 ● 生徒一人ひとりが前向きに過ごせる学級経営 ● 専科の教科担任の配置 ● 小中乗り入れ授業の実施を可能にする教員配置 ● 勉強の教え方のレベルの向上 ● 地域と連携した学びの深化 ● 将来、社会に貢献できる人間の育成 ● 相談しやすい環境づくり ● 一人ひとりの個性伸長
---	---	--

→生徒・保護者・地域の声をよく聴き、学校生活の土台となる「安心と信頼」を大切に教育活動を展開していきたい。

(4) 家庭や地域での子どもの姿について (円グラフは保護者の評価)



● 2/1～2/14 (月～金) の健康観察等記録 (平均値)



→今年度も保護者アンケートの結果で積極肯定(はい)の回答が最も低かったのは、時間を守ることでした。2月前半の生徒の生活記録を見ると、メディア利用時間が長い程、家庭学習時間は短く、就寝時刻が遅い傾向が見られました。特にスマホやゲーム、SNSを1日6時間以上もやっている生徒は、かなり依存性が高まっていると思われます。メディア漬けに睡眠不足が重なり、イライラしやすくなって学校生活に支障を来している生徒もいます。再度、親子でメディア利用に関する約束を話し合ったり、コミュニティスクールで子供も交えて小中共通のルールを話し合ったりして、節度のある健康な生活習慣を身に付けさせることが急務であると考えます。

4 次年度の学校経営案

(1) まなびフェスト・学校教育目標の改訂

R4 徳 奉仕の心を持つ生徒 自ら進んで仕事をする生徒 地域の一員として行動する生徒	R5 徳 奉仕の心を持つ生徒 明るく元気な挨拶をする生徒 自ら進んで掃除をする生徒	【目標】 …明朗快活な生徒・学校 …床を磨き心を磨く生徒・学校
R4 体 健康で活力のある生徒 毎日元気に活動できる生徒 体調を自己管理できる生徒	R5 体 健康で活力のある生徒 毎日元気に活動する生徒 規則正しい生活を送る生徒	【目標】 …活気あふれる生徒・学校 …心身の健康を保つ生徒・学校

(2) まなびフェスト・学校経営の重点の改訂

R4 確かな学力の定着 伝え合う授業：自分で考え表現する（自律） 響き合う授業：知恵と力を合わせる（協働） 高め合う授業：まなびを広げ深める（創造）	R5 確かな学力の定着 伝え合う授業：気づいたことを伝え合う 響き合う授業：課題解決のアイデアを考え試す 高め合う授業：学びの成果や課題を批評し合う	【つきたい力】 …情報分析力・感性 …論理的思考力・判断力 …批判的思考力・表現力
R4 健やかな心身の育成 目標に向かって挑戦し努力し続ける 学習・行事・生徒会活動・部活動に励む 心身の健康と安全に対する意識を高める	R5 健やかな心身の育成 基本的な生活習慣を身につける 運動に親しみ体力を向上させる 目標に向かって挑戦と努力を続ける	【ねらい】 …学力・体力向上の土台づくり …運動能力の向上 …やる気と根気を培う

(3) まなびフェスト・小中一貫教育の重点の改訂

R4 カリキュラム・マネジメント 安心感（セーフティ）のある集団づくり 主体的・対話的で深い学びの実現 ふるさと学習を核にした9年間の学びづくり 読書と家庭学習の充実 基本的な生活習慣の確立	R5 カリキュラム・マネジメント 安心感（セーフティ）のある集団づくり 主体的・対話的で深い学びの実現 ふるさと学習を核にした9年間の学びづくり 1人1台端末の効果的な活用 基本的な生活・学習・読書習慣の確立	【手立て】 …探求の対話（p4c） …伝え合い響き合い高め合う授業づくり …地域人材と対話的に学ぶキャリア教育 …ICTを普段使っている授業づくり …目標・行動・時間のマネジメント
R4 ふるさと学習 ふるさとの風土と文化を体験的に学ぶ ふるさとと他の地域とのつながりを学ぶ ふるさとを支える人々の生き方を学ぶ ふるさとの未来像を考える 自分の将来の生き方に活かす	R5 ふるさと学習 大人との対話を重ねて人の生きがいや仕事のやりがいを学ぶ 1学年：地域で働く人や仕事の魅力を探る 2学年：働くことの目的や意義を探る 3学年：自分と社会の将来像を探る 探求学習の成果を授業参観日にプレゼンテーションする	【要点】 …春のあずまネカフェをスタートにする …身近な地域の人々から直接学ぶ …町内での職場体験を通して考える …自分の興味関心に基づいて取材する …秋のあずまネカフェでプレゼンする

(4) 令和5年度主要行事

月	学校行事	対外行事	紫波西学園関係
4	入学式 生徒会入会式 修学旅行（東京方面） 避難訓練（火災） 交通安全教室 生徒総会（前期）	盛岡市内一周継走	小中連携推進協議会① 学校運営協議会①
5	授業参観・PTA総会 運動会 春のあずまネカフェ	田植え	
6	期末テスト	地区通信陸上 地区中総体	授業研究会① 授業研究会②
7	避難訓練（引渡し） 校外体験学習 期末三者面談	県通信陸上 県中総体 高校体験入学	
8	PTA防災キャンプ+CS 夏のあずまネカフェ 地区駅伝 リサイクル活動 小中合同案山づくり	地区駅伝 全日本合唱地区大会	全国学調・Q-Uテスト(1)結果分析 学校運営協議会②
9	中間テスト 避難訓練（地震）	私の主張 地区新人大会	授業研究会③
10	三中祭（合唱・自由演目） 県新人大会 生徒会役員選挙	県新人大会（前期）	学園公開研究会準備
11	公立高校入試事務説明会 三中米袋詰め・発送 期末テスト	地区中文祭 県中文祭 県新人大会（後期）	学園公開研究会 県学調結果分析 学校運営協議会③
12	期末三者面談 たきび祭・日野四中との交流		
1	公立推薦入試	合唱アンサンブルコンテスト	Q-Uテスト(2)結果分析
2	期末テスト 2年もちづくり		小中連携推進協議会②
3	卒業式 修了式	公立高校入試	学校運営協議会④

5 学校運営協議員からの質問や意見・回答（議事録より抜粋）

1. 小中一貫教育の成果と課題を受けて、令和5年度、特にもこういふところをということがあれば教えてほしい。
(中)「授業づくり」では、授業づくりのコンセプト「伝え合い 響き合い 高め合う」という部分は、小1だろうが中3だろうがどの授業でも9年間を通してやっていく。子供たちが考え判断しながら、課題解決していく学習活動を重ねて、目指す資質・能力を育成していきたい。
(中)「ふるさと学習」の部分は、今年の反省で「中学校の調べ学習が小学校の域を出ていない」という声があり、中学校はもっとキャリア教育にシフトして、自分の生き方やあり方と関わらせたような中身にしていく。
(中)「小中乗入れ授業」では、それを助ける人事配置を要望しました。国の加配制度の中で、小中一貫教育支援加配というものがあります。小学校で授業を10時間以上持つことを条件に、例えば小6の算数と中1の数学のどちらも同じ先生が指導するものです。中学校に加配がつけば、中から小に行きます。逆に小から中にもT2とかで手伝いに来てもらえれば、小6・中1の子供たちが続けて小中またがって指導を受けられるようになります。教科指導ばかりでなく、生活実態も中学の集団の中でどうなっていくか、小学校でどうなっているか等、教職員の理解が一層進むものと思われまふ。(会長)まさに今お話いただいたことが一貫校としてのメリットだと思いますし、これができてくると9年間の流れの中で子供たちが学力向上していけるのではないかと思います。
2. P4Cの取組の成果はどんな感じでしょう？
(中)日常化しているとは言えない部分があるのですが、毛糸のコミュニティボールをもった時に人の話を聞く側に立ってしっかり聞くとか、自分の発言の機会を心の準備をしながら待っていたりするという経験は、何回もやった方がいいと思います。すぐに成果が出るというよりは、だんだんに人と交わる時の心のハードルを下げて、誰とでも対話できるようになることに繋がるのではないかと信じてやっています。
3. 「ふるさと学習」の今年の取組についてとてもいい活動ができていたと思いますが、次年度の中学校各学年の目標を具体的に挙げてもらったのはよかったと思います。中学校だけでなく小学校の方でも具体的な目標を上げてほしいと思います。小学校の学習を中学校で発展させ、9年間でこのように学習してきたという、段階を踏んだことが見える計画がほしいです。
(小)小学校でもできています。秋の公開で提案することになります。
(中)町の小中一貫教育の評価検討委員会で大学の先生から、「小学校では課題意識を持つということを加味しながら学習になればいい。中学校だったら地域課題の解決に踏み込ませていってほしい。」とアドバイスをいただきました。中学校段階では、調べ学習の発表とか体験したことの発表に留まることなく、そこから自分が何を課題に捉えてその解決をどうしたのかという部分に踏み込んだ体験的な学びをさせ、高校での学習に繋げていきたいと考えています。
4. 小中の先生方と運営協議会のメンバーがプロジェクト部会を作ってはどうか。企画向上部会、学校環境整備部会、体力づくり部会、地域連携部会というような部会を作って、そこに小中学校の先生方とPTAの方、運営協議会の方も何人か参加してもらってプロジェクト部会を作る。こゝで学校にとって必要なこと、あるいはこういう支援があるんじゃないかということを含めながら活動を組織していく。このような取り組みが全国の中にはあるようだが、当協議会はまだ2年目でそこまでやれていなかった。関係者の生の声を聞いて、話し合いができる場もつくれば、もっと組織が活用されたコミュニティ・スクールができ上るのかなと思います。どうですか。
(CSコーディネーター)来年度2回の「紫あ波せトークング」を企画しています。第1回目7月の夏休み初めの勤務時間内に、先生方と学校運営協議会委員の皆様を中心とした熟議を考えています。そこで先生方の生の声が聴ければいいと思っています。第2回は冬に、地域の皆さんを中心に日曜日に集めて地域の声が聴ければいいと思います。
(中)12月3日にお米販売で日野市に行って「たきび祭り」に参加しました。会場にいろんなブースが出ていて、その一つに学校育成会のブースがあり、焼き芋などを作って販売していました。親御さんだけでなく地域の方も交じってその祭りを盛り上げている姿が楽しそうでした。その利益は学校に還元するそうです。こういった、一緒に何かを作ることできないだろうかと考えました。そこに子供も入れて地域の大人の接点を作り、一緒に何かを作る活動があればいいなと思いました。三中では今冬の夏休みに親子防災体験学習をやる予定です。その日に合わせて、「ワンコイン・カフェ」などを別動隊でやってみるのもいいかもしれません。こういったアイデアはいろんな方が持っているのではないかと。それをディスカッションして、じゃあやってみるかという機会を作ることが面白いのではないかと。中学校の実践で言えば、「春のあづまねカフェ」で地域の方と子供たちのディスカッション、「秋のあづまねカフェ」で授業参観、さらに「夏のあづまねカフェ」を、学校主導ではなくて子供と大人の考えで創ってほしいと思います。

(地域学校協働チーム・公民館指導員) 夏カフェのように、長期の休みは地域の人たちと活動するというのはいいのかなと思いました。春・秋は学校の主導のあづまねカフェを、夏とか冬は地域の方で進められると思いました。小中一貫という9年間のスパンで何ができるのか、地域の方でも考えていきたいと思います。

5. 学校運営協議会の次年度の計画はどうなっていますか？

(中) CS推進計画はほぼできていますが、正式には今日の学校運営方針の承認を受けて、来年度第1回の学校運営協議会で、細かい部分も含めて提案をしたいと思っています。

6. 最近「アサーティブ・コミュニケーション」という研修を受けました。自分の考えを素直に、率直に、誠実につたえる能力を高めようという研修でした。中学校の段階でこういう能力を高めればスムーズにいくのかなという気持ちがあります。親と子供たち、先生方、地域の方々が関わりをもつために、いつもとは逆に、親と先生方が机の方に座って子供たちの授業を聞くという企画もできるのかなと感じました。そうすれば、自分の考えを素直に誠実に伝える能力が高められるのかなと思います。

(中) アサーティブな考え方というのは、P4C でやっている「だれも言ったことを否定しない」というルールとすっかり重なる部分です。ふるさと学習の発表場面でも、既にやっていることなので、できると思います。

7. 今年の小学3年生の学習は、とても発展的なふるさと学習で、地域のことを調べて、写真を取り入れて、キャッチフレーズを考えてポスターを作った学習は、中学生でもいいんじゃないかという内容でした。同時に、この3年生が次に何をやるんだろうと逆に心配になりました。9年間というスパンの中の学年段階の系統生と発展性が整備されていかなければならないと思いました。

(地域学校協働チーム・公民館指導員) 9年間の中で同じ学習をすることがあってもいいと思います。小学校では地域の人から素直に聞いて感じる、中学校ではどうしてこうなったんだろうともっと深く考えが深まるように追及すればいいと聞きながら思いました。

(中) ポスターの学習は、中学の美術の中で出てきます。何らかのメッセージを発信するために、いろんな情報を取捨選択して分かりやすい内容を焦点化して表すということです。課題を捉えていれば、小学生でもあれだけできるということをまざまざと見せていただきました。学年に応じた伝え方とか課題に対する考え方、解決の質とか方法とかを押さえながら、計画していきたいと思います。

8. 紫波町のシンボルである「東根登山」というのを学校で企画できないだろうか？ぜひ子供たちに一回は登山を体験してもらいたいと思います。水分公民館では、毎年6月第1土曜日に町民登山を募集・実施していますが、機会・企画があれば水分公民館では全面的にご協力申し上げたい。

(会長) 学校がやるということではなく、むしろ地域の方々が学校にあまり負担を掛けない形で登らせたいなと思います。私はあづま幼稚園の年長児を登山させたいなと思って、登山をやっている方からどれくらいの支援体制を組めるか話をしているところです。

(中) 学校から登山行事がなくなったのは、教員の高齢化が一番の大きなところかと思います。以前西根中学校にいた時は、目の前に岩手山が見える校舎でした。私は夏休みに希望者を募って、親子登山をしました。無理強いはできませんが、手上げ方式の希望参加ならば実現できるのではないかと思います。

(保護者委員) 今年行った放課後子供教室や習字教室、工作教室をやったような枠で、登山やハイキングがあってもいいのかなという感覚でいます。その企画に関しては、やりたいと思っている人が中心となって行う。コロナ禍で意見を吸い上げる機会がなかったが、今後アンケートや参観日の場で意見を吸い上げる機会があればいいと思う。スポ少も指導者がいないとか、場所と時間の制限で子供たちも運動する機会や回数が減ってきているので、地域で指導者を確保して実現できるようになってほしい。

9. 今年参加した「あづまねカフェ」は非常に楽しかったので、来年度もぜひ参加したいと思います。

(中) 来年度の「あづまねカフェ」では登山ガイドさんも呼ぶ予定です。ものづくりをやっている方も呼びます。パラエティに富んだメンバーでやりたいと思っています。

10. 三中の家庭学習は、一中・二中に比べて少ないということになりますか。それをもって、全国学調等の結果ではどうですか。

(中) 全般的に、勉強時間は短い割に学調等の結果は高い傾向があります。三年生は非常に真面目に取り組んでいるので、1・2年生に比べて学習時間は長いです。

(保護者委員) 今年の中三生は、勉強熱心な子供たちが多く、みんなで頑張ろうという雰囲気だった。受験期になってネガ

ティブな雰囲気になったが、一生懸命頑張る子に引き上げられたのかなと思います。学年によって色があるのかなと思います。

(中) 今年の三年生の子供たちは、小学校 4 年までに基礎的なことをガチっとやってもらったおかげで、下位の子供が少ない状況です。基礎が十分でない子は、家庭学習任せではどうにもならない面もあるので、放課後に残して個別学習の時間をつくるという工夫もしています。さらに支援体制を強めていきたい。

11. 女子の走るのが苦手な子が多くなっているという話があり、小学校でも 50m 走が弱い結果が出ています。全ての子供が走るの好きとはいかないと思いますが、小中ともに連携をしながら、走る取組を工夫することはどうですか。

(小) 今年は業間運動として、マラソンをやる月(週 1 回程度)があった。頑張ってもこれくらいだった。先生方も一緒についてやるので、業間すべてをやると授業準備等に支障が出てくる。業間時間に全員外に出て遊んでくれればいいのだが、そうでもないところがあります。遊びをうまく仕掛けていかなければならない。

(中) 中学校では、冬期間の部活動が 30 分程度と短いので、部ごとではなく一斉に集めて全員で基礎トレーニングを楽しんでやろうとし始めています。